

被爆72周年、原爆落下中心地公園から、世界に向けて平和メッセージ発信
「平和の祈り キッズゲルニカ in ながさき」～国際子ども平和壁画展

平和の祈り

子どもたちが願う
世界の平和



日米人形交流90周年記念
国際子ども平和壁画展
「キッズゲルニカ in ながさき」



日時／ **2017年8月6日[日]—20日[日]**

会場／ **長崎原爆落下中心地公園内、下の川斜面** (長崎市平野町)

◇主催：「**長崎親善人形の会(瓊子の会)**」

◇協賛：十八銀行社会開発振興基金、(株)九電工、(株)メモリードモータース、カステラの和泉屋

◇協力：キッズゲルニカ国際委員会、(有)アート長崎

◇後援

長崎市、長崎市教育委員会、カトリック長崎大司教区、NPO法人長崎国際文化協会、一般財団法人・小原流長崎支部、(公財)長崎平和推進協会、長崎県被爆者手帳友の会、高校生一万人署名活動実行委員会、長崎新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、西日本新聞社、NHK長崎放送局、NBC長崎放送、KTNテレビ長崎、NCC長崎文化放送、NIB長崎国際テレビ、エフエム長崎、長崎ケーブルメディア、長崎キワニスクラブ、アジェンダNOVAながさき

■事務局

長崎親善人形の会(瓊子の会)

長崎市油木町45-24

会長連絡先 電話 095-846-3358

携帯 090-4992-5037(山下昭子)



日米共同制作 長崎市立城山小学校 城山学童クラブ
米国ニューヨーク州ロチェスター
ジョン・ジェームズ・オーデュボン第33小学校
ジェネシー・コミュニティ・チャーター・スクール

●「平和は城山から」(2017年制作)

城山学童クラブは、長崎市立城山小学校内にある放課後児童クラブです。城山小学校は原爆落下中心地から500mの所にあり、一発の原子爆弾により1400余人の子どもや先生達が尊い命を失いました。校内には、嘉代子像、少年平和像、被爆校舎など、多数の平和のシンボルがあり、子どもたちはそれらを「平和を大切にしたい」という願いを込めて描きました。今回の絵は、アメリカのNY州ロチェスター市の子どもたちが描いた絵7枚につなげて、その続きを児童37人で仕上げました。この絵を通じてロチェスター市の子どもたちと絆が深まり、平和を発信出来たような気がします。



長崎市立岩屋中学校

●「未来へつなく虹 ～戦争がない世界を作ろう～」
(2017年制作)

爆弾や兵器よりも花と安らぎを。一面の花畑は平和の象徴。いろいろな花があるのは様々な人々がいるから。そんな思いや願いを込めて美術部23人全員で制作しました。笑顔の人形は日本人形と西洋人形。右手に見える傷ついた橋は、時を経て立派な葉を茂らせ、戦争による惨状は時間をかけて平和の花畑に。時間がたつと、どんなに見える傷が少なくなると、決して消えない心の傷、歴史。消えることがないのは消してはいけないものだから。伝えなければならないことだから。この花畑の平和がとても尊いものだということが伝わるように。平和の花がつながっていくように。ここナガサキから、平和をあなたへ。そして世界へ。



諫早市 学童保育いちご

●「平和のかけはし」(2017年制作)

私たちの住んでいる諫早市は長崎県の中央部にあり自然の豊かなところです。諫早を代表するものとして、眼鏡橋・のんご諫早祭などがあります。眼鏡橋は石でできた2連のアーチ橋で、市民の憩いの場所となっています。のんご皿踊りは、子どもからお年寄りまでが集い、両手に皿を持って踊る皿踊りで、笑顔にあふれ活気に満ちています。ここにイメージした眼鏡橋は国と国との平和の架け橋を願って描きました。大きなハートはすべての人の心が一つになること。そして、のんご皿踊りは世界中の人たちが手を取り合い仲良く平和な暮らしが続きますようにという思いを込めて描きました。けんかや争いのない平穏で笑顔がいっぱいの暮らしが私たちの望みであり、決意でもあります。



長崎市 長崎精道小学校

●「平和への祈り～精道から世界へ～」(2017年制作)

平和のために今、私たちができること。それは、祈りです。6年生(29人)は今年5月に浦上天主堂で2体のマリア像に出会いました。一つは被爆マリア像そしてもう一つはゲルニカで爆撃に遭ったマリア像です。2体のマリア像を見て、私たちには平和を祈り続ける、願い続ける使命があることを感じました。ロザリオには一人ひとりの平和への願いを込めました。長崎精道小学校には新友情人形「ジェシカ」がいます。作品の中央には「ジェシカ」と「長崎瑠子」の絆を描きました。この絆が祈りの花束になって世界中に広まって欲しいと願っています。長崎精道小・中学校は今年40周年を迎えます。右下の船は精道学園の校章です。この船に乗って平和な世界へ、平和な未来へ漕ぎだしていこうというメッセージを込めて制作しました。



島原市 学童ひかわおひさまクラブ(38人)
みどり保育園学童煌めきクラブ(44人)
(小学1年～6年)

●「つなごう!世界のなかま、平和を!」(2017制作)

私たちの町、島原は自然豊かで人のやさしさがあふれる所。悲しい歴史やつらい災害もあったけど、青い目の人形・リトルメリーやジョアンナの仲間たちを通じて、世界と仲良くしてきました。日本中や世界の人々に助けられながら、仲間と手をつなぎ、平成新山の恵みに感謝してがんばってきました。笑顔と絆、希望と平和が私たちの願いです。島原から世界へ、世界から島原へ。ずっと仲間の輪とつながることを祈ります。



イスラエル国 ガザ地区

●「ガザで生まれた子どもたちは全ての障壁を越える」
(2017年制作)

ガザのこのクラブで、子どもたちは馬を愛し、乗馬の訓練をし、そして馬の世話をします。子どもたちは平和壁画の制作を楽しみ、この場所で馬に乗る平和な思いを表現しました。彼らは自分たちと馬とのつながりを表現しています。馬が自分たちを楽しませながら力強くジャンプさせてくれ、遠くにも行き、平和な楽しさを与えてくれます。彼らが言うには、ガザの生活は大変厳しい。でも私たちは馬のように強く、私たちの前にある壁をジャンプするんです。彼らが言うには、この友人や仲間は、馬とともに幸せや平和を感じる場だということです。



日本・キューバ・ベルギー・イタリア

●「生命の輪」(2016年～2017年制作)

イタリアの現代美術の巨匠ミケランジェロ・ピストレット氏は「第三のパラダイス」というアート・プロジェクトを世界各地で行っています。このプロジェクトは、「自然」と「人工物」の調和のとれたつながりを出すシンボルをさまざまなアートで表現するというものです。アートを通して平和なより良い世界を目指すというキッズゲルニカと共通の目的を持ち、二つのプロジェクトのコラボレーションがイタリアで始められました。この作品は、2016年秋に東京でスタートし、キューバ、ベルギー、イタリアで描き続けられました。大きなキャンパスにはさまざまな生き物の姿がカラフルに描かれ、『生命の輪』というタイトルが付けられました。

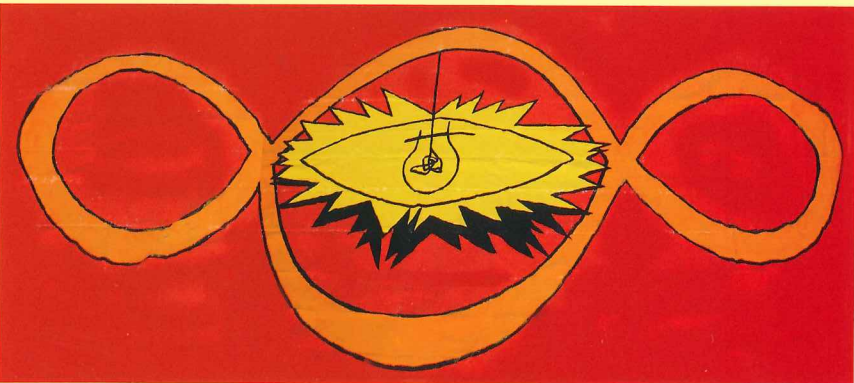


ウクライナ

コンスタンチノフカ ドネツク地域

●「東ウクライナから子どもたちの輝かしい世界」
(2017年制作)

このパネルは、コンスタンチノフカ(ウクライナのドネツク地方)の子どもたちによって、先ずは彼らが自発的に行った打ち合わせで、ウクライナと日本という二つの国のアイデアを描くことに決まり、それに従って制作されました。ウクライナと日本は、精神的に似通っていて、平和は過去の悲劇的な出来事の共通の記憶を通じて維持され支えられなければなりません。丸い部分は、ウクライナのオリジナルなピサンカを表しています。通常は自然の象徴によって装飾された手作りのお守り、それらのピサンカが盆栽の木の上にあります。盆栽は日本では命の象徴の一つです。5人の国内移民者を含む計22人の子どもが絵画活動に参加しました。



イタリア ピエモンテ州トリノ

●「ゲルニカ+第三のパラダイス」(2017年制作)

イタリアのトリノの近くにあるカステッロ・ディリヴォリ現代美術館においてキッズゲルニカとミケランジェロ・ピストレット氏の「第三のパラダイス」プロジェクトとのコラボレーション・ワークショップが行われました。この現代美術館にはピストレット氏の作品も収蔵されています。古い城砦を改造して建てられたこの現代美術館の建物全体が過去から現代への歴史の流れというものを目に見える形で示しています。子どもたちが未来への希望を表現するためにこのような歴史的な場所でコラボレーションに参加したことはたいへん意義のあることでした。この作品の中央には、ピカソの「ゲルニカ」の作品にあるものと同じ象徴的な電球の光が描かれています。



イスラエル国 ガザ地区

●「ガザに住む私たちのママの庭」(2017年制作)

これらの子どもたちのお母さんはガンを患っています。お母さんたちは「支援と希望のためのガン患者センター」に助けられています。

子どもたちはガンや、貧困、低いヘルスケア、そして閉じられた国境の中で困難な生活を強いられています。

病気について話し合うことは難しかったのですが、子どもたちとともに平和というテーマを考えることにしました。

「私のママは花壇よ。バラやジャズミン、お母さんは綺麗だから」子どもたちとママたちは、みんなで描くことがどんなに大切で楽しいか感じながら木や花壇を描きました。

賛 助 出 品

新潟県長岡市立阪之上小学校 (全校児童270人)

●「阪之上キッズゲルニカ」(2016～2017年制作)

戊辰戦争、太平洋戦争という2度の大きな戦災を経験した新潟県長岡市。阪之上小学校では、戦争が及ぼした大きな惨禍や互いの国々が尊重し合うことの大切さ、生命や人権を尊重すること、そしてふるさと長岡を愛し、世界平和を求める学習を続けてきました。昨年度、「平和」のイメージを形に表そうと、この作品を作成しました。「慰霊」「復興」「平和への祈り」の想いが込められた「長岡花火」、復興の象徴「フェニックス」、明るい未来へつながる「虹の架け橋」。わたしたちの思いが込められた作品にすることができました。

「日本中で、世界中で戦争や自然災害によって大きな被害を受けている方々の苦しみが少しでも和らぎますように。そして、平和な世界が築かれますように。」



★「平和の祈りキッズゲルニカinながさき」 ～国際子ども平和壁画展について～

今夏、2017年は長崎に原爆が落とされてから72年目です。

8月6日広島原爆の日、9日の長崎原爆平和祈念式典に合わせて、多様な国と長崎の子どもたちが、平和を願って描いた平和壁画を原爆落下中心地公園内、下の川斜面に展示します。二度とあってはならないこの日に、ここ長崎を訪れる大勢の人たちに、子どもたちの平和の祈り、願い、希望のメッセージを平和壁画に込めて世界に発信します。

「ゲルニカ」は反戦壁画の代表作です。スペイン市民戦争の時にゲルニカの町を空から無差別に爆撃したことにスペインの画家、パブロ・ピカソが抗議して描いた絵が「ゲルニカ」(1937年)という大きな絵。「キッズゲルニカ」は、この絵と同じ大きさ(縦3.5×横7.8m)のキャンバスに、世界各地の子どもたちが、自分たちの想像する平和の絵を描くというプロジェクト。世界的な活動として現在60数か国と地域、約400点を制作し世界各地で展覧会が開かれています。

長崎親善人形の会(瓊子の会)は、2007年から各地の子どもたちと平和壁画制作に取り組んでおり、今年で11年目、50点を制作しました。海外からは、アメリカと長崎のコラボレーション、キューバ・ベルギー・イタリア・日本との共同制作、イスラエル国ガザ地区から。

また東ウクライナ、ドネツク地域コンスタンチノフカといった日本ではなかなか報道されない地域の子どもたちが、命の不安に怯えながら描いた平和壁画には、希望を未来につないでいこうとする彼らの思いがあふれています。これらは爆心地公園を訪れる国内外の人たちに、強烈なインスピレーションを与えるでしょう。

ここ長崎から、戦争や原爆がどんなに恐ろしく、哀しいかを世界に発信し、またウクライナと日本の子どもたちが仲良くつながり、平和の大切さを世界に訴える活動に協働していけるよう希望しています。

長崎親善人形の会(瓊子の会)山下昭子

＊(長崎市主催) 会場／長崎原爆資料館正面玄関前階段下広場＊



長崎市 青山保育園学童部 たまりば

●「長崎の平和を大切に」(2017年制作)

長崎に原子爆弾が落ちて、たくさんの人がなくなりました。私たちは、「青山保育園学童部たまりば」の全72名で、下書きから完成までみんなで協力して取り組みました。自由を意味する鳥が、虹や地球の周りを飛び回り、その虹の上にはいろんなところに贈られた(千羽)鶴が飛んでいます。また、左下には城山小学校にある平和のモニュメントを描きました。このモニュメントには、平和の3つの願い「大きな希望」「広い心」「深い愛」が込められています。私たちのたくさんの平和への思いがみなさんに届くことを祈っています。



長崎市立三川中学校

●「11時02分」(2017年)

私たちの「キッズゲルニカ」のテーマは「11時02分」です。大きな時計の針は11時02分を差しています。72年前の長崎で起きた悲劇の始まりの瞬間です。普通に生活していた人々や動物等の多くの尊い命が人間の手によって一瞬にして奪われた時刻です。「キリン」や「象」、「犬」や「イルカ」たち、動物も人も同じ命なのです。すべてのものが毎日、平和に過ごすことができる世界にしたいという思いを絵にしました。